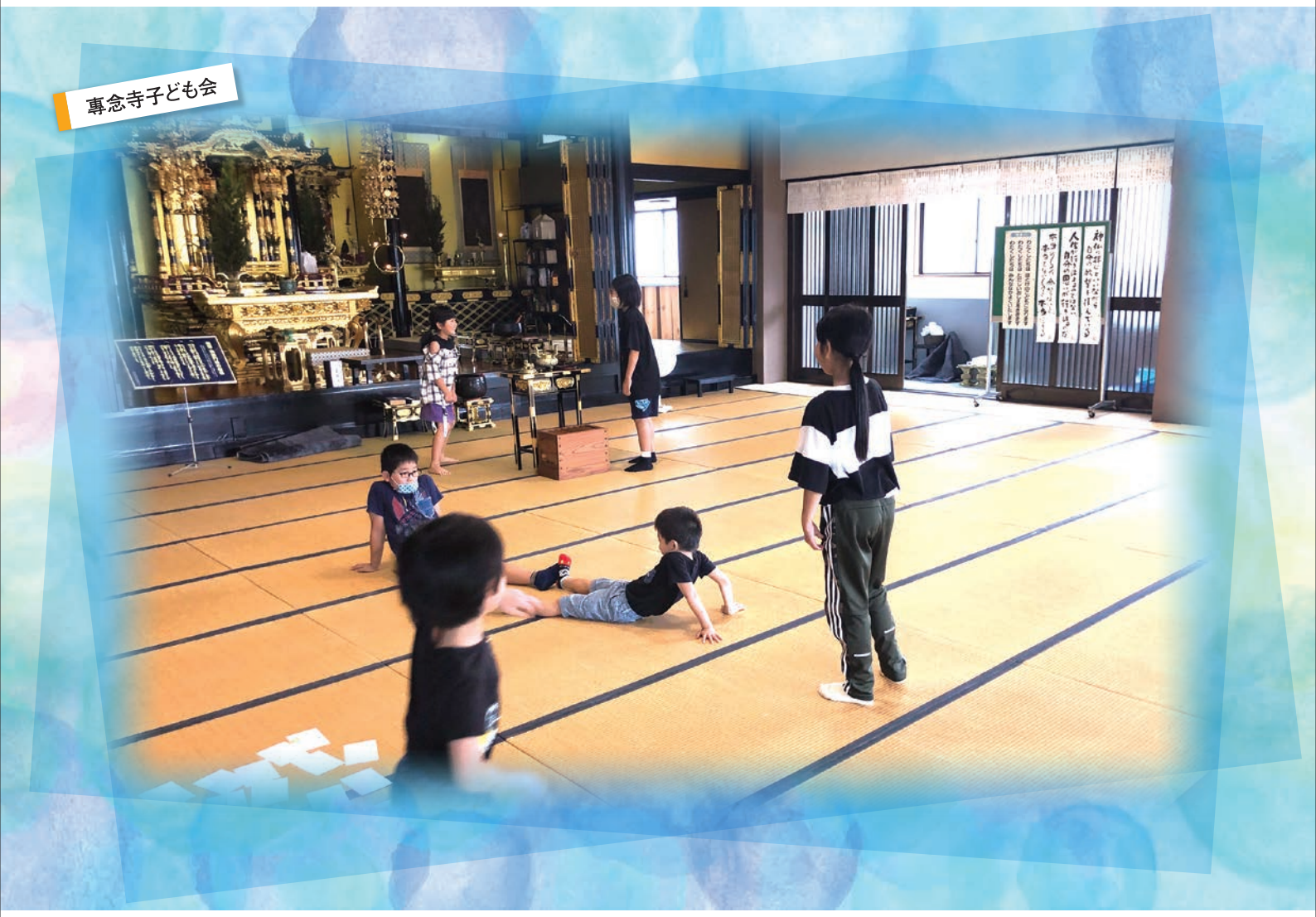
青少幼年センター 子ども会情報紙

# ひとりから

第30号 2021・6月

子ども会情報紙『ひとりから』
発行日／2021年６月１日
発　行／真宗大谷派（東本願寺）青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199
TEL：075-354-3440　FAX：075-371-6171
E-mail：oyc@higashihonganji.or.jp




## ほんとうのよりどころ

青少幼年スタッフ　小原（おはら）正寛（まさひろ）

新型コロナウイルスの影響により生活のスタイルが大きく変化した。不要不急の活動をすることが憚（はばか）られるようになってしまい、お寺の子ども会などは生活にとって必ずしも必要なことではないのかもしれない、その自問自答の２０２０年であった。

自問自答の中で感染予防対策をとりながら、内容や案内もせばめ手探りで子ども会を実施した。子どもたちは以前と変わらぬ顔で境内を走り回っている。その姿を見て、子どもたちが求めているのは、生活には不要不急であっても大切なものは「よりどころ」が必要であると感じた。

私たちがほんとうに求めているのは、生活には必ずしも必要としていない場所なのかもしれない。子どもたちにとって「お寺」とは、不要不急でも求めずにはおられない「よりどころ」であると教えてもらった。そのことにお寺に生活する者としての矜持をたもち、子どもたちと悩みながら歩んでいこうと強く心に思った。

## 蓮ちゃん通信 その❶

### 『聖徳太子』のリーフレットを発行しました！

慶讃事業で進めている「ほとけの子リーフレット」改訂の第1弾として、『聖徳太子』を発行しました。ぜひ、子ども会や法務の場でご活用ください。

教務所または
青少幼年センターで
お求めください。
（無償）

●サイズはA6
（A5二つ折り）

# 仏さまの悲しみ

北海道教区　黒萩（くろはぎ）　昌（まさみ）

私たちは、本当は色々な人と仲良く一緒に生きていきたいと思っています。でも悲しいことですが、私たちには、その仲良くしたいという素直な心の奥底に、自分が一番かわいいという心がいつでも横たわっています。ですから、私たちはみんなと仲良くしたいと願いながら、最後は仲良くなれないまま多くの人たちと別れていかなければならないんですね。人間は不思議な生き物です。そして悲しい生き物なんです。

これから、この不思議で悲しい生き物、人間のことを町田知子（まちだともこ）さんの一冊の本をたよりにみなさんと一緒に考えてみたいと思います。ご家族・お友達と一緒に読んでみんなで話し合ってみてください。

町田知子さんは昭和38年に生まれられ、脳性小児麻痺のため不自由な身体をかかえながらも深く素直に生きられました。その町田知子さんが、手記『17才のオルゴール』で「人間とは」ということをテーマに一つの文章を書いておられます。

**人間とは何か。私はそういうことをいままでたくさんの人にきいた。そのこたえはむげんにひろがった。私はこう思う。人間はすばらしい力をもっている。いろいろのはつめい、はっけん、生活のくふうや文化をすすめていく知えがある。でもその半面みにくさもある。人が不幸な時はかわいそうにと思うが人が幸せな時はねたむ心がある。このように絶えず自分と人をくらべる。人間はおくびょうである。自分にじしんがないから人とくらべるのである。それでまんぞくであろうか。人間とはそんなきたないものであろうか。心のどこかでわるいことだと思っていてもやはり自分にじしんをもつためしかたがないのであろうか。自分もまぜて考えると人間とはなにかわからなくなった。（※）**

「人が不幸なときはかわいそうにと思うが人が幸せな時はねたむこころがある。このように絶えず自分と人をくらべる」本当にそうですね。この心は子どもも大人もみんなもっているんです。心の中にみんな思いあたるんですね。そんな私たちに仏さまは、「人とくらべる心、人をねたむ心があなたの心の中にもたしかにあるということをどうか知りなさい」と、そのことだけを私たちに教えてくれます。そして、その時、私たちにもし、「人とくらべ、人をねたむ、こんな私が悲しい」と自分で自分を悲しむ心がおこってきたら、それが仏さまの心、仏さまの悲しみなんです。

## 子どもたちと聞く法話

**雨にうたれてこの世からきえたい。道にまようのはいやだから。だけど私にはこの世しかいくところがない。そんな言い方おかしいとおもわれるかもしれない。人間かんけいからにげたいと言ってもやはり私は人間がすきだ。わらい、なき、いかり、くじけたり、はげましたりそんな人と人のふれあいがすきだから。それに道にまようのもいいだろう。雨にうたれて死ぬより炎のようにもえて生きることのほうがずっと美しい。もえろもえろいのちの炎。もえろもえろいつまでも（※）**

こんな文章もありました。

「人とくらべて、その人をねたむ、そんな私が悲しい」、仏さまにその心をもらった時、私たちは同時にそんな私といっしょに泣いて笑ってくれる友だちの顔、いかりくじけている私をはげましてくれる友だちの顔が見えてきます。私たちはその友だちの顔から生きる元気をもらっていくんですね。そして私たちもまた、友だちに生きる力をあげながら友だちといっしょに生きていくんです。ここに人と生まれたことの本当のよろこびがあるのだと思います。

私たちは「仏さまの悲しみ」から「生きる力」もらって生きるんですね。

※『17才のオルゴール』町田知子（柏樹社）より（読みやすくするために、若干読点を加えました）

## 蓮ちゃん通信 その②

### ○△□ 念珠の価格を改定しました

「○△□念珠」（真宗大谷派合唱連盟製作）は、材料費の価格変動のため、2021年4月1日よりの価格を下記のとおり改定いたします。昨年の改定から間もない期間に、たびたびの値上げとなり誠に恐れ入りますが、よろしくお願い申し上げます。

**○△□念珠 新価格 350円［旧価格 300円］**

※○△□念珠手作りキットは現行価格のまま350円となります。

# キラキラ宝石せっけん

～手づくり「せっけん」で手洗いを楽しもう～

ひとりからはじめる
イベントレシピ

きれいな「せっけん」を作って、子どもたちへプレゼントしませんか？

**材料**
- グリセリンソープ
- 色材（着色料）

**道具**
- 透明のプラコップ
- 紙コップ
- 包丁
- まな板
- 牛乳パック
  （下から4cmのところでカット）

## 作り方

1 紙コップに入れたグリセリンソープ50gを電子レンジで溶かす
10秒ほど加熱し、溶けない場合はさらに5秒加熱し
様子をみる（やけどに注意）

2 ①で溶かしたグリセリンソープに色材で好きな色をつけて、
プラコップに流し込む
何色か混ぜる場合は牛乳パックに透明プラコップを斜めに置き、
先に流し入れたものの表面に膜が張ってきたら次の色を流し込む
最後に透明プラコップをまっすぐにして残りのグリセリンソープを注ぐ

3 常温で1時間ほど置く
（冷蔵庫で固めると、カットの際割れやすくなるのでNG）

4 透明プラコップから固まった「せっけん」を取り出し、
表面を宝石のようにカットする
※残ったかけらは、再び溶かして「せっけん」にする

できあがり

**ワンポイント**
- 製菓用のシリコン型で作ると
  コロコロの小さな「せっけん」になります
- 透明の袋とリボンを用意して、
  ラッピングしてみましょう♪

# 「ひとりから」はじめる仏事

**子どもたちに伝えてみませんか?**

大正時代、本山社会課※から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が伝えてくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします!!

※本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少幼年教化を担っていた。

## お盆

お釈迦さまのお弟子の目連さんとお母さまの物語を尋ねてみましょう。目連さんは出家し修業して神通力でいかなるものでも見通すはたらきを身につけます。亡くなった愛(いと)おしいお母さまを神通力でみると、餓鬼道(がきどう)(地獄)で苦しんでいる姿でした。それは、お母さまがわが子だけを格別に溺愛されたその罪によるものでした。目連さんはお母さまを餓鬼道(地獄)から救いたいとお釈迦さまに相談されます。お釈迦さまは、7月15日にたくさんのお坊さまが集まるので、その力を借り、そして、百味(ひゃくみ)のご馳走をお盆にのせてお供えし供養すれば功徳をいただくことが出きると説かれました。目連さんは教え通りに供養したところ、お母さまを餓鬼道(地獄)から救うことが出きました。このことに因(ちな)んで現在もお盆には「盂蘭盆会(うらぼんえ)」という法要が営まれています。お母さまが救われ、目連さんはじめお坊さんたちが飛びはねて(上がり喜んで)踊りだしたのが「盆踊り」として伝わっています。また、お家にある「お盆」は餓鬼を救う器のことで、形が変わって現在も使われています。

出　典:幡谷淳信(教材)「盂蘭盆会」
『児童と宗教』第2巻第7号より一部抜粋、現代語訳
リライト:"サガエさん"こと佐賀枝夏文

**ボクはこんな風に話してみました**

佐賀枝 夏文(さがえ なつふみ)
(大谷大学名誉教授)

お盆は7月15日ですが、地方では8月のところもあります。お盆は目連さんとお母さまのお話しで「逆さまごとをやりながら生きている人間」の姿について教えが説かれています。お盆には亡くなった方を偲んで、お寺やお墓にお参りしましょう。その時には、盆踊りやお家にあるお盆のいわれを知って、お参りするといいですね。

### コーナーの活用例

- 本文「お盆」をそのまま覚えて話す。
  または、ご自身の表現で話す。
- プリントして配布し、朗読する。

上記以外にもその場に合わせてご活用ください!

本文のPDFデータは、青少幼年センターホームページ「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

### 編集後記

◎『ひとりから』が第30号を迎えました。その間に子どもを取り巻く状況も大きく変化し、人との関わりにも次々と課題が出てきました。関わりを生きるには、自分を知ることが必要ですが、それは簡単なことではありません。お寺の子ども会が、自分の姿を認め、誰かとの関わりを喜べる場と時間である、そのことを大事にしていきたいです。

(編集長　池﨑方子)

◎新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめてからもう1年以上となります。全国の寺院での子ども会は休止、延期をやむなくされましたが、感染対策を行ない試行錯誤しながら、現在では「子どもの居場所」が回復されつつあります。未だ感染症の終息が見えない中ですが、青少幼年に親鸞聖人の教えを伝えるため、これからも様々な情報を発信してまいります。この30号から編集に携わることとなりましたのでよろしくお願いいたします。

(青少幼年センター主事　萩村一寿)

真宗大谷派の青少幼年教化の情報をお届けします。
https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/
※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。
真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター　TEL.075-354-3440

青少幼年センターホームページ
東本願寺　青少幼年センター　検索
ぜひ、ご覧ください!!